

競 技 注 意 事 項

1. 規則について

本大会は、2015（公財）日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項にて実施する。

2. 練習場について

- (1) 補助競技場及び屋外で練習を行うこと。補助競技場での練習については、投擲競技が行われているため競技に支障をきたさないように練習すること。主競技場での練習は禁止とする。
- (2) 投擲練習は現地招集後に投擲審判員主任の指示のもとで行うこと。それ以外は禁止する。

3. 招集について

- (1) 1次招集は、雨天練習場の競技者係にて行う。
- (2) 招集は、競技者本人が受けること。なお、1次招集の前に各自腰ゼッケンを取りに来ること。
- (3) ゼッケンを付けたユニフォーム（上下）及びスパイクを持参し、ユニフォーム（上下）・ゼッケン・スパイク・腰ゼッケンの確認を受け（代理人の場合は『重複出場届の控え』を競技者係に提示する）、コール用紙のレーンナンバーを本人が丸で囲み、一次招集の完了とする。
- (4) 5000m以上のトラック種目については（2）の1次招集の完了後に、別ナンバーカードを配布するので、最終コールまでに必ず胸・背に安全ピンでユニフォームにつけること。
- (5) 1次招集時間は、下記の通りである。

種 目	開 始 時 刻	完 了 時 刻	最終（現地）コール
トラック・リレー競技	競技開始 50 分前	競技開始 30 分前	競技開始 10 分前
フィールド競技	競技開始 60 分前	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒高跳	競技開始 90 分前	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前

- (6) リレー競技の招集は、競技者4人とも受けること。
- (7) リレーオーダーについては、必ずプログラムの当該種目に記載されている2名は含むこと。
- (8) リレーオーダー用紙は、1次招集開始時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。
- (9) 同一の時間帯に2種目以上出場する競技者は、1次招集開始時刻までに重複出場届を競技者係に提出し、代理人はその控えを持って招集を受けること。尚、代理人が招集を受けない場合は失格とする。
- (10) 棄権届・リレーオーダー用紙・重複出場届は競技者係及び受付にて配布する。

4. 棄権について

- (1) 大会前の棄権の届け出については、大会所定の用紙に必要事項を記入し、4月11日（土）17時00分までに関西学連事務所宛にFAXで送信すること。
- (2) 当日棄権は原則として認めない。やむを得ず棄権する場合は、棄権者届を大会本部の総務に提出し、承認を得ること。尚、棄権者届には、監督・本人の自筆サインを署名すること。その後、総務より棄権者届の下半分を受け取り、1次招集完了時刻までに競技者係に提出すること。
- (3) コール漏れ（現地招集含む）は棄権とみなし、出場を認めない。

5. 競技者の服装について

- (1) リレー競技に限らず、同一大学の選手は色・柄ともに同一のユニフォームを着用すること。
- (2) ナンバーカードは、平成27年度学連登録番号のナンバーカードを使用し、必ずユニフォームの胸部・背部に、折り曲げたりせずに明瞭に付けること。但し、跳躍種目については、いずれか一方だけでよい。
- (3) トラック競技では競技者係で配布する腰ナンバーカードを右腰部に明瞭に付けること。1500m、5000m、10000m、3000mSC、4×400mについては腰の両側に付けること。尚、腰ナンバーカードは、競技終了後ゴール地点で返却すること。また、途中棄権などで競技を中止した場合も忘れず返却すること。
- (4) 競技場は全天候舗装であるので、使用するスパイクのピンの長さは、トラック・フィールド共に9mm以下とする。但し、走高跳、やり投げについては12mmまで使用可とする。

6. 競技用具について

- (1) 使用器具は、原則として競技場備え付けの物を使用すること。
- (2) やりは、検定を受けて承認された物のみ使用できる。検定の受付は、競技開始1時間30分前から1時間前まで、北側器具庫前（100m スタート付近）で行う。
- (3) 棒高跳用ポールは、各自で準備すること。
- (4) ポールを送付する場合は4月12日(日)10時00分～17時00分着で西京極陸上競技場に輸送すること。上記期日以外で送付した場合、受付を拒否し返送する。競技終了後のポールの返送は各自で手配すること。(4月13日(月)17時まで受け付けに取りに来るようにすること)
- (5) やり・ポールの返送については、各大学で責任をもって返送すること。
- (6) 競技場の器具を破損した場合は、当該競技者の所属する大学より必要代金を徴収する。

7. トラック競技について

- (1) トラック競技の計時は写真判定（1/100 秒）とする。但し、装置に故障などのトラブルが発生した場合、そのラウンドの全ての組を手動計時（1/10 秒）とする。
- (2) トラック競技におけるプラスアルファの決定は 1/100 秒単位とする。尚、レーンが不足する場合は、写真を拡大して 1/1000 秒単位をみる。それでも同タイムかつ同着の場合、抽選を行う。
- (3) レースにより予選、決勝で 9 レーン全てを使用することがある。
- (4) 風について、ホームストレートの向かい風が極端に強い場合、総務・審判長・関西学連幹事長・ヘッドコーチの協議にて、100m・200m・110mH・100 mH をバックストレートで行う場合もある。
- (5) 男子 4×100m・男子 4×400m は、参加校が 9 校以下となった場合、予選のレースは行わず、決勝のレースのみ行う。また、女子 100mH は参加人数が 8 名以下となった場合も、予選のレースは行わず、決勝のレースのみ行う。
- (6) 5000m・10000m に関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で、残り一周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。
 5000m・・・男子 18 分・女子 22 分
 10000m・・・男子 36 分・女子 43 分

8. 不正スタートについて

- ・今大会はフライング 1 発失格とする。
- ・スタートの号令は英語で行う。
- ・不正スタート発見装置は使用せず、目視で判定する。
- ・不正スタートの判定に対する参考材料として、ビデオ撮影を行うことがある。

9. フィールド競技について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種 目		練習	1	2	3	4	5	6	備考
男 子	走高跳 (インカレ A)	1m80 1m90	1m85	1m90	1m95	2m00	2m03	2m06	2m00 以後 3cm 刻み
	走高跳 (インカレ B)	1m55 1m65	1m60	1m65	1m70	1m75	1m80	1m85	
	走高跳 (オープン)	1m75 1m85	1m80	1m85	1m90	1m95	2m00	2m03	
	棒高跳 (インカレ A)	2m80 4m20	3m00	3m20	3m40	3m60	3m80	4m00	4m60 以後 10cm 刻み
女 子	走高跳 (インカレ)	1m35 1m50	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m63	1m60 以後 3cm 刻み
	走高跳 (オープン)	1m40 1m55	1m45	1m50	1m55	1m58	2m01	2m04	1m55 以後 3cm 刻み
	棒高跳 (インカレ)	2m00	2m20	2m40	2m60	2m70	2m80	2m90	2m60 以後 10cm 刻み

- ① 競技開始の高さを8人以上クリア出来ないと判断した場合、総務・審判長・関西学連幹事長・ヘッドコーチの協議にて競技開始の高さを下げる場合もある。(雨天の場合などは審判長の判断により変更することがある)
 - ② 競技の結果に応じてジャンプオフを行う。
 - ③ 試技者が1人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。
- (2) 三段跳の踏切板の位置は、男子対校の部がAピット13m・Bピット11m、オープンの部が13m。女子は対校の部・オープンの部共に10mで行う。
- (3) やり投・砲丸投は主競技場で、円盤投・ハンマー投は補助競技場で行う。
- (4) フィールド種目についての公式練習は2回とする。投擲練習は、投擲審判員主任が時間を考慮した上で決定する。
- (5) **フィールド内でのやりの突き刺しは禁止する。練習は審判の指示に従って行うこと。**
- (6) 跳躍種目及び投擲種目において競技者が8人以下の場合は、3回までの試技が無効(ファウル)であっても、以降3回の試技を認める。

10. 競技について

- ・トラック競技の決勝の組み合わせについて、レーン順は主催者側が公正に抽選し、決定する。短距離種目のゴール後は、競技者の安全のため自分の割り当てられたレーンを走ること。
- ・**競技場のトラック・フィールド内には、競技者以外は絶対に入らないこと。**グラウンド内での競技者付き添い・ビデオ撮影などは一切禁止する。
- ・カセットレコーダー・ラジオ・携帯電話・音楽機器・その他の通信機器などを競技場、及び招集場内に持ち込むことは禁止する。
- ・競技終了後、競技者は、指示に従って速やかに退場すること。尚、トラック競技終了後、退場する際に大会本部前を通行しないこと。
- ・競技中の選手に対する助言は2015年(公財)日本陸上競技連盟規則に従う。また、フィールド競技に関しては現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行ける。しかし、審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務等で協議し対処する。

11. オープン種目について

- (1) 全種目、次のラウンドは行わない。

12. 開閉会式・表彰について

- (1) 開閉会式について
参加大学は、開閉会式の開始10分前に部旗を持った旗手を先頭に整列すること。
- (2) 表彰について
各種目3位までに入賞した競技者は、賞状を配布するので記録発表30分後に大会役員室に取りに来ること。
- (3) 各種目の対校得点は下記の通りとする。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
対校得点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

13. 抗議の申し立てについて(競技場規則第146条)

- (1) 競技進行に起きた行為、または順位に関する抗議は、その競技者あるいはチームの監督から結果が正式に発表(アナウンス)されてから決勝の場合は30分以内、次のラウンドが行われる競技では15分以内に、口頭で審判長に申し出なくてはならない。

14. 競技場使用について

- (1) メインスタンド・サイドスタンドの開門は8時30分、閉門は両日、競技終了もしくは閉会式終了の20分後とする。
- (2) 補助競技場の開門は両日8時00分、閉門は17時00分とする。ただし、準備、競技状況によって多少前後する場合がある。
- (3) メインスタンドにおける集団応援は禁止する。集団応援を行う場合はサイドスタンドかバックスタンドで行うこと。

- (4) やり、ポールを競技場に置いておく場合は、受付に申し出ること。ただし、それらが盗難・破損にあった場合、主催者側には一切責任の無いものとする。また、大会終了時には必ず持ち帰ること。
- (5) 雨天練習場内・更衣室に毛布やシート類を置いて帰ることは禁止する。閉門の際、私物は全て処分する。
- (6) リレーなどでマーキングに使用したテーピングは使用者が責任を持って撤去すること。
- (7) 芝生内は全て立ち入り禁止とする。
- (8) 全競技終了後、各大学は周囲の清掃をしなければならない。
- (9) **横断幕・のぼりの設置場所はサイドスタンド・バックスタンドのみ認める。また、テープ等は使用せず、必ず紐で結ぶこと。**
- (10) **荷物については各自で保管すること。**紛失・盗難に関して、主催者は一切責任を負わない。
- (11) 雨天練習場は飲食禁止とする。
- (12) ウォーミングアップは補助競技場で行うこと。**主競技場でのウォーミングアップは禁止する。**

15. その他

- (1) 本大会参加校は、学生審判員及び学生補助員派遣申し合わせ事項に基づき、定められた数の学生審判員及び学生補助員を派遣しなければならない。尚、学生審判員はブレザーもしくは学生服を着用し、配布されたバッジを胸に付けること。学生補助員はクラブ指定のジャージを着用すること。定められた人数を派遣しなかった場合、また、その業務を果たさなかった場合はその大学の以後の出場を中止させる場合がある。
- (2) 記録は競技場 1 階正面玄関付近の記録掲示板に掲示する。1 日目の記録は 2 日目の午前 11 時に撤去する。
- (3) 本大会注意事項及び学生競技者としてのマナーを逸脱した行為が見受けられた場合は、その学生の所属する大学の以後の出場を中止させ、処罰を与える場合がある。
- (4) 競技場内に立ち入る際、競技場保護のため革靴・ヒール等は一切禁止する。学連より特別の指示がない限りアップシューズもしくはスニーカーを着用すること。
- (5) 競技中に発生した障害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2015年(公社)日本学生陸上競技連合普通会員は原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- (6) 競技終了後、スタンドで集合等を行うことなく、速やかに競技場から退場すること。
- (7) 駐車場の駐車可能台数には限りがあるので、できるだけ**公共交通機関を利用すること。**
- (8) **バイク・原動機付自転車等での入場は一切禁止する。**バイク・原動機付自転車等で公園内に入場した場合、**厳重に処罰する。**
- (9) **雨天練習場での場所取りは禁止とする。**
- (10) その他、不明な点については大会本部まで申し出ること。

関西学生陸上競技連盟